

26春闘

給料アップ!

人を増やして!



## 女性労働者7942人に聞きました!

やめたいと  
思う  
72%

「いつも思う」と「時々思う」を合わせると7割超となりました。やめたいと思う理由の1位は「多忙で身体的・精神的にきつい」(50.1%)、2位は「仕事に見合った賃金が支払われていない」(33.3%)でした。過重労働で賃金が低い女性労働者の実態が浮かび上がります。

具合が  
悪くても  
休めない

具合が悪いのに働いている人が半数以上いました。休めない理由は1位が「人員不足で職場の体制がない」(39.9%)、2位が「仕事が多忙」(34.3%)、3位が「同僚への気兼ね」(33%)となり、生理休暇の取得率も13.6%と低い実態がわかりました。きちんと休める人員配置は使用者の責任です。

あなたの働き方は  
いかがですか?



## 私たちと一緒に! 労働組合で要求実現しよう!

### 労働組合なら、使用者と対等に交渉できる!

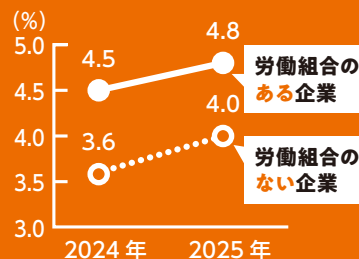
労働組合法は、憲法28条で保障されています。この法は、「労働三権」(団結し、団体で交渉・行動)を実現するために制定されており、労働者は使用者(会社)と対等な立場で交渉し、労働条件の改善を図ることができます。

あらゆるハラスメントと女性や  
性的マイノリティ差別の根絶をめざす  
キャンペーンに取り組んでいます

### 労働組合があってこそ賃金の引上げがすすむ

厚労省が、公表した2025年の賃金の引き上げ率は、労働組合が「ある」は4.8%、「ない」は4.0%と、0.8ポイントもの差があります。

賃上げ率の推移(厚生労働省調べ)



**ZENROREN 全労連女性部**  
〒113-8462 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館4F

HPはコチラ  
タグ一覧から  
「女性」で検索



1人でも入れる組合があります 相談無料

**0120-378-060**

月~金 10:00~17:00(あなたの地域の労働相談センターにつながります)

職場で困ったことが  
あったら、お気軽に  
相談してください。

# 日本の経済力は世界第5位なのに 私たちの暮らし、なんでこうなの？

暮らしが依然厳しさを増しています。「賃金があがらない」「米が高くて買えない」「奨学金と言う名の借金はいつまで？」

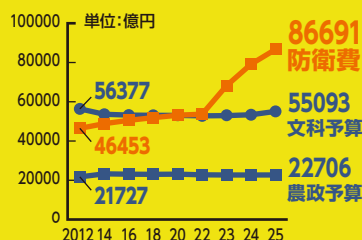
私たちの生活の保障は政治の責任です。しかし政府は軍備増強に5年間で43兆円もの

お金を使う一方、医療や教育、社会保障の充実には背を向けています。

私たちが働いて納めた税金は、私たちの暮らしと平和のために使われるべきです。

## ミサイル より くらしに

### 教育予算を 追い抜いた防衛費

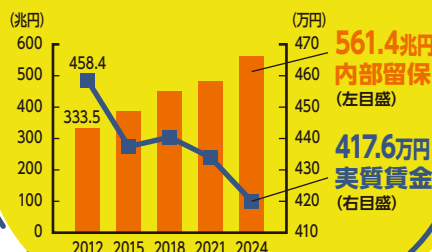


私たちが働いて  
納めた税金は  
くらしに使って!

## 賃金の 大幅引上げ、 底上げを

### 増え続ける大企業のためこみ利益 下がり続ける実質賃金

(内部留保)



## 最低賃金 今すぐ 1700円以上 全国一律に

### 最低賃金の 地域間格差がひどい!

最高 1226円/時・東京

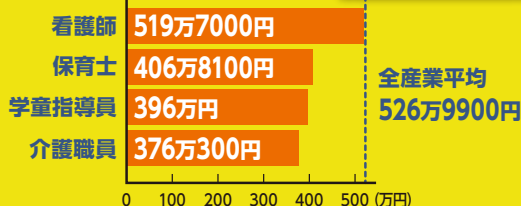
最低 1023円/時・3県

1年間で 36.5万円の差

中小企業支援を  
国の責任で

## ケア 労働者の 賃上げを

### 専門職の賃金が 全産業平均より低いなんて



厚生労働省「職業情報提供サイトjob tag」および「令和6年賃金構造基本統計調査」より

## 「抑止論」は時代遅れ 戦争を起こさないためには対話しかない

軍備拡大は戦争抑止の力にならないばかりか、両国の緊張を高め偶発的な戦争勃発の危険を高めます。

日中間には「互いに協力のパートナーであり、互いに脅威にならない」(2008年日中首脳会談共同声明)という約束があります。韓国の尹・ジェミョン新大統領は「軍事のみに依存して国家を守る時代は過ぎた」「平和共存体制の構築が切実に求められている」と南北対話を進める姿勢を示しています。ASEANは政府の各級会議を積み重ね、国同士の信頼を醸成してきました。米中露日韓にも平和の枠組みへの参加を呼びかけています。いま必要なのは、ASEANに学び、対話の積み重ねで問題解決を図る外交姿勢です。

## あなたの困りごとは何ですか？ 私たちと一緒に考えましょう

## 2026.3.6 女性の休日

ストライキ

職場・家庭で、日本でも。

ドキュメンタリー映画「女性の休日」公式HP ▼

1975年10月24日、アイスランドで全女性の90%が仕事や家事を一斉に休んだ前代未聞のムーブメント「女性の休日」。女性がいないと社会が回らないことを示しました。2025NGO日本女性大会で、パネリストから「日本でも2026年3月6日に『女性の休日』を」と呼びかけがありました。3月6日何ができるか、みんなで話し、行動しましょう。

